2019 年 6 月 10 日発行
第 11 号
編集：歴らぼ編集部

歴らぼ通信

目次

01　歴史文化学科の活動　　02　卒業論文：２０１８年度
03　歴らぼの活動　　04　編集部の活動

01　歴史文化学科の活動

大塚国際美術館ツアー体験記@基礎演習Ⅱ（2018 年度）

2018 年 9 月 16 日（日）、歴史文化学科 1 回生向けの科目である基礎演習Ⅱの課外授業として大塚国際美術館を訪れ、私はサポーターとして参加しました。1 回生達は美術館に展示される絵画を興味深そうに眺め、時に写真を撮影し、歴史と美術に関する学びを深めました。また、絵画になりきるコスプレが催されており、1 回生の何人かは張り切って自らを絵画に変身させ、ユニークな姿を撮影しました。後半にはサポーター主催のイベントを行いました。これらの機会を通じ 1 回生の団結力がより深まればと思います。（2 回生・藤原敬弘）

リサーチフェスタ参加記

私達中町ゼミは、2018 年 12 月 23 日に甲南大学にて開催されたリサーチフェスタに参加しました。ゼミでは「歴史的背景から再考察する元寇の時代」をテーマにポスターを製作しました。ポスターを使用して聴講者に説明するという貴重な体験ができました。午前と午後に発表があり、担当外の時間は別のグループの研究が聴けるのですが、参加していた高校生たちの発表のレベルの高さに驚きました。その後、他者の発表を見て自分達が気付いたことを共有するグループ学習がありました。（2 回生・岡田怜於）

中町ゼミ旅行@福岡

2018 年 12 月のリサーチフェスタにむけて、私たちのゼミは元寇の研究をしました。今回はその総仕上げとして、福岡の元寇史料館やその他の博物館を、1・2 回生合わせて 10 人と中町先生で巡見しました。 2019 年 2 月 19 日は元寇史料館と福岡市博物館、2 月 20 日は九州国立博物館へ行きました。史料館には武具や戦績、芸術品が、2 つの博物館には主にアジア圏の遺物が展示してあり、とても勉強になりました。他にも、サザエさん通りや太宰府天満宮など観光面も巡ることができ、充実した時間を過ごすことができました。来年度もリサーチフェスタに向けて前期からテーマを決めて取り組んでいく予定です。（2 回生・井上亜由美）

歴らぼ通信の刊行は、これで 11 号となりました。歴らぼ通信では、歴史文化学科における様々な活動を紹介しています。通信に記載される記事の多くは、ホームページ「歴らぼの WEB サイト」（http://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun）でも紹介していますので、そちらもご覧下さい。各記事を書いた学生の年数は記事の時期に合わせています。

正井なず菜（稲田ゼミ）:『歴代宝案』から見る琉球王国の貿易

『歴代宝案』とは、琉球王国の外交文書をまとめた歴史史料です。この『歴代宝案』の訳注本第 1 冊に記載されている、初めて明朝への朝貢物が登場する 1425 年から、明朝が滅亡する 1644 年までの琉球王国から明への朝貢物を表にまとめました。その内容から、琉球王国がどのような国々と貿易を行っていたのか、その貿易関係の変化と広がりなどを考察しました。琉球王国の貿易の形態を、捉えることができたのではないかと思っています。しかし、明朝以外の周辺諸国との文書を収録した『歴代宝案』の第 2 冊も参考にしましたが、交易品の表を作る時間がありませんでした。この第 2 冊の交易品の内容も併せれば、より深く考察ができるのではないかと考えています。

番号	『歴代宝案』番号	文書名	年月日	進貢品目録	備考
1	1.16.01	国王尚巴志より礼部あて、永楽帝への進香の事、冊封と先王への賜祭に対する謝恩の進貢の事の咨と目録	1425/閏7/17	金包輸刀2把・金結束輸刀2把・金結束長刀2把・金帯銅結束輸刀2把・漆輸袞刀4把・長刀3把・黒漆輸腰刀60把・五等各色摺紙扇400把・屏風2対・硫黄4万斤少[弱]、令報ず2万斤正[煎熟すれば]・螺殻8千533個	袞(ほう)刀：太刀 螺殻：夜光貝の殻
2	1.16.03	国王尚巴志より礼部あて、洪熙帝即位の慶賀の進貢の事、海船の修理を請う事、附搭貨の事、暦日の事の咨	1425/閏7/17	馬45匹・硫黄2万斤・蘇木	蘇木：スオウ
3	1.16.04	国王尚巴志より礼部あて、進貢の事、附搭貨の事、暦日の事の咨	1425/12/17	馬40匹・硫黄1万5千斤・蘇木	
4	1.16.05	国王尚巴志より礼部あて、長至令節の慶賀の進貢の事、附搭貨の事、暦日の事の咨	1426	馬20匹・硫黄5千斤・蘇木	
5	1.01.07	皇帝より尚巴志へ、皮弁冠服を給賜し、生漆等の収買を求める勅諭	1426/6/1	生漆・各色磨刀石	磨刀石：砥石 琉球から明へ(琉球にて内官柴山が収買)
6	1.16.07	国王尚巴志より礼部あて、海船賜与への謝恩の進貢の事、附搭貨に対し永楽銭支給を請う事の咨	1428/1/14	馬45匹・硫黄8千斤・蘇木	
7	1.12.06	国王尚巴志の、勅諭をうけ、とりあえず買い付けた分の生漆・磨刀石を先ず進めるむねの奏	1428/2/11	生漆270斤・五様の磨刀石計3千855斤	
8	1.16.08	国王尚巴志より礼部あて、勅諭をうけ、とりあえず買い付けた分の生漆・磨刀石を先ず進めるむねの咨	1428/2/11	生漆270斤・五様の磨刀石計3千855斤	
9	1.16.09	国王尚巴志より礼部あて、皮弁冠服頒賜に対する謝恩の進貢の咨と目録	1428/2/11	金結束刀靶黒漆輸線金竜腰刀2把・銅結束黒漆輸腰刀100把・紅漆輸黒漆靶袞刀100把・金箔等圍紙屏風3対・泥金等圍摺紙扇1千把・白紙1万張・第大様磨刀石1万1千斤正・螺殻3千個	
10	1.16.10	国王尚巴志より礼部あて、万寿聖節の慶賀の進貢の事、附搭貨の事、暦日の事の咨	1428/9/2	馬40匹・硫黄7千500斤・蘇木	
11	1.12.07	国王尚巴志の、勅諭をうけ、とりあえず買い付けた分の生漆・磨刀石を先ず進めるむねの奏	1428/10/□	生漆・各色磨刀石	
12	1.01.08	皇帝より国王尚巴志へ、残りの銅銭による生漆等の収買を求める勅諭	1428/10/13	屏風・生漆・各様磨刀等	琉球から明へ(琉球にて内官柴山が収買)
13	1.16.11	国王尚巴志より礼部あて、進貢の咨	1429/3/20	馬35匹・硫黄1万5千斤	
14	1.16.12	国王尚巴志より礼部あて、万寿聖節の慶賀の進貢の事、海船の修理を請う事、暦日の事の咨	1429/10/10	馬40匹・硫黄8千斤	
15	1.12.08	国王尚巴志の、生漆・磨刀石を買い付けた船の難破により、上進の品は自弁するむねの奏	1431	生漆・各色磨刀石	

乾訓子（佐藤(公)ゼミ）: ポグロムと「反ユダヤ感情」－1940 年代のポーランドの実例を通して－

第二次世界大戦後、ポーランドの各地でユダヤ人虐殺事件が多発しました。これらの事件は、戦時中にポーランドを支配したナチスの影響による道徳的退廃や、ポーランド人が戦時中にナチスと共謀し犯した略奪や虐殺などの罪がユダヤ人の存在により暴かれることへの恐れに起因としたものだと考えられました。本論文では、このような原因と虐殺の繋がりを見直すべく、戦時中から戦後にかけて起こった 3 つの事件の事実、証言と特徴をまとめました。結果として、虐殺を単一の要因、例えば「反ユダヤ感情」や「道徳的退廃」などでは説明することはできず、特定の時空間に作用する複合的な状況が虐殺を引き起こしたと考える方が自然でありました。これらの事件は、事件を取り巻く複合的状況を丹念に解明することがこれからの歴史認識論争の課題を指し示しました。

2018 年度卒論報告会

2019 年 2 月 28 日(木)14 時から歴文ラボラトリで 2018 年度の卒論報告会が開催され、学生、教員あわせて 25 名が参加しました。今年は、正井なず菜さん、北口ひかるさん、乾訓子さん、栗林裕太さん、田中夏織さんの 5 名が、パワーポイントや配布資料を使いながら報告しました。いずれの報告も内容が充実しており、討論でもたくさんの質問や意見が出て、予定の時間を大幅に超過するほど議論が盛り上がりました。報告会の後には、i-Commons の Pronto で懇親会を開催しました。4 年生だけでなく、1 年生から大学院生、それに教員も参加して、交流を深めました。下級生は卒論のイメージをつかむことができましたし、報告者は、普段接することの少ない他のゼミの学生や先生と意見交換するなかで、自分の卒論にどのような意味があるか、改めて認識することができました。（企画担当・高田実）

歴らぼ遺跡巡り班@京都

2018 年 8 月 20 日、私は遺跡巡り班の京都巡検に参加しました。千本鳥居で有名な伏見稲荷大社を中心に、豊臣秀吉とその妻ねねで有名な高台寺、圓徳院を訪れました。伏見稲荷大社は、朱塗りの鳥居が隙間なく並ぶ姿がとても幻想的でした。境内全体で鳥居が約 1 万基あることに驚きました。また、高台寺・圓徳院に行き、百鬼夜行展を鑑賞しました。お寺のあちこちに飾られたお化けの描かれた提灯や、百鬼夜行絵巻などを楽しみました。妖怪の他にも高台寺には桃山時代の美術品、圓徳院にはねねの思い出が詰まったお庭が楽しめます。皆さんも是非訪れてみてください。（1 回 生・勝本里奈）

歴らぼ遺跡巡り班@大阪（適塾と四天王寺）

2018 年 9 月 11 日、遺跡巡り班は大阪の適塾と四天王寺の巡検を行いました。適塾では、開塾以来からあまり変わらぬ建物に触れながら拝観しました。特に印象に残ったものは、かつて塾生の喧嘩によって傷ついた柱で、当時の様子が鮮明に想像できました。四天王寺では、独特で多様な建造物や像などを拝観しました。中でも、講堂に祀られている十一面観世音菩薩と丈六阿彌陀如来を一目見た時は、あまりの神々しさに感嘆し、ありがたみを感じました。今回の巡検を通じて、適塾と四天王寺に関する歴史を深く学べました。（2 回生・藤原敬弘）

歴らぼ遺跡巡り班@明石

2018 年 5 月 20 日と 27 日、私達遺跡巡り班は、明石に行きました。明石城や柿本神社・旧波門崎灯籠堂などの明石を代表する遺跡を巡ることができました。今回の巡検では事前学習を行ったので、参加者がそれぞれ明石を知った状態で、よりいっそう遺跡を楽しむことができました。また、古地図を持って歩くことで明石の変化や変わらない部分を知ることができました。（2 回生・福田綾香）

歴らぼ遺跡巡り班@堺

遺跡巡り班は、2018 年 7 月 8 日に堺へ行きました。巡検ルートは、仁徳天皇陵、堺市博物館、いたすけ古墳と巡りました。博物館では古墳のできる行程、埴輪や石棺の模型が展示してあり、みんなで真剣に展示品を眺め、説明書を読みました。実際に古墳も見に行きましたが、堀と側面しか見えず、唖然。しかし、逆にそれほどまでに大きいのだと実感することができ、とても良い経験となりました。（2 回生・井上亜由未）

歴らぼ遺跡巡り班@奈良

2018 年 11 月 11 日、遺跡巡り班は、奈良巡検を行いました。この巡検で最も興味深かったのは、興福寺五重塔です。興福寺五重塔は、730 年に光明皇后により建てられた塔で、現存しているものは、1426 年に再建されたものです。約 600 年の間立ち続けてきた興福寺五重塔は、非常に力強い佇まいでその雰囲気に圧倒されました。また、近づいて塔を見ると、軒の下の組物や装飾が非常に細かな作りで、当時の技術力の高さに驚きました。（2 回生・藤本航大）

０４　編集部の活動

歴かふぇ０６：菊川亜騎先生

私達歴らぼ編集部は、2018 年 7 月 19 日、今年度の美術史Ｉを担当された菊川亜騎先生をお招きし、第 6 回「歴かふぇ」を開催しました。菊川先生の専門は美術史であり、特に最近は第二次世界大戦前後の彫刻における東洋と西洋の交流を研究されています。今回は「彫刻家イサム・ノグチと日本」というタイトルで、氏と日本の関係についてご報告頂きました。また、ご報告の後は、参加者からの様々な質問に答えていただき、より深くテーマについて学ぶことができました。お菓子を食べながらのゆるりとした空間で知識を深める充実した時間となりました。（3 回生・山本彩菜）

歴かふぇ０７：寺嶋一根先生

歴らぼ編集部では、2018 年 12 月 17 日に第 7 回歴かふぇを開催しました。今回お話頂いたのは、「日本文化史」の講義を担当されている寺嶋一根先生です。「服装から読む天下人」をテーマにお話して頂きました。豊臣秀吉が奇抜な装束を始めた意味や、それを見た公家の反応や対応、武家と公家の装束について、当時の様子を装束から知ることができました。さらに、寺嶋先生の研究である服装史についてもお話し頂きました。学生からの様々な質問にも答えて頂き、とても良いお話を今回も聞くことができました。（3 回生・武田卓司）

編集：武田卓司（代表・4 回生）、福田圭佑（同）、森安秀夏（同）、山本彩菜（同）、岡本栞奈（2 回生）、大東樹奈（同）、出渕優衣（1 回生）、徳留亜美（同）、鳴海邦匡
発行：甲南大学文学部歴史文化学科
発行日：2019 年 6 月 10 日　連絡先：〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 TEL078-435-2874（学科事務）